

苗木城跡の概要

苗木城は、14 世紀（鎌倉時代）から遠山荘の地頭職を務めていた一族の遠山昌利（生没年不詳）によって 1526 年に建てられた。16 世紀は、周辺地域の有力武将の間で激しい対立があった時代であり、高森山は険しい岩山であったため、遠山家の城の防御力は高かった。

遠山氏は、南は尾張国の織田氏、東は甲斐国の武田氏と婚姻関係を結んだ。苗木城に居城を構え、激動の 16 世紀、そして一時的な中断を経て、その後の江戸時代（1603–1867）まで家系を維持することができた。城は 1871 年までの 270 年間、遠山家が支配していた。1868 年以降、急速な近代化政策に乗り出した明治新政府は、城を過去の象徴とみなした。苗木城は、当時廃城となり解体された多くの城のひとつである。

城跡は木曽川の北岸にある。かつては、この川が部分的な堀の役割を果たし、城の守りを固めていた。現存する石垣に加え、かつては城門、物見櫓、郭、そして頂上の天守閣があった。現在、中津川を見下ろす天守閣の支柱は、天守閣を建てるために岩盤に掘られた穴の中にある。

1981 年には国の史跡に指定され、2017 年には日本城郭協会によって日本の名城のひとつに認定された。